

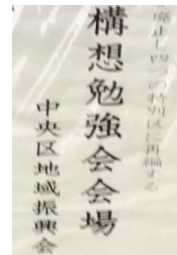
住民説明会らしい「住民説明会」

昨日 9 日午後、大阪市立中央区民センターで「大阪市を廃止し 4 つの特別区に再編する都構想勉強会」が開催され、強い雨のなか出かけた。

堺筋本町近くの中央区役所には初めて行った。隣接する中央区民センターには、「大阪市廃止・特別区設置 住民投票」と書かれた垂れ幕がなびいていた。選挙管理委員会で投票用紙に掲載が決まった「大阪市廃止」という 5 文字は、当然のことではあるが、きわめて大きな意味をもつ。



まず大阪府・市副首都推進局の制度企画担当部長から、問題が指摘されている「説明パンフレット」の説明が 30 分ほどあった。何回か読み聴いていたので、またかという感じだった。私が参加した大阪市民主催の住民説明会では、このあと松井市長と吉村知事の「説明」（というより講演）が続いて辟易したが、今回はすぐに質疑に移った。



参加者から事前に集めた質問に対して、副首都推進局の担当者が答えるという形式ですすめられた。提出される質問の多いことに驚いた。それだけ大阪市廃止に対する市民の不安・疑問が多いのであろう。質問や論点をおおまかに列挙しておこう。



松井市長は「大阪市役所の廃止」などと発言しているが、大阪市は廃止されるのか。大阪市廃止後に、姉妹都市・友好都市はどうなるのか。区役所・社会福祉協議会は残るのか、障害者福祉はどうなるのか。二重行政は無駄なのか。改革効果額と二重行政について。大阪市の財産はどうなるのか。このパンフレットは協定書の説明以外のことも書かれているではないか。芸術や文化はきちんと継承されるのか。財政シミュレーションについて。特別区の基準財政需要額や裁量経費について。コロナ禍でなぜ住民投票なのか、などなど。

NPO 法人 AM ネットの武田かおりさんがファシリテーターをつとめた。参加者からの質問、それに対する回答を深める形で、会がすすめられた。先日の住民説明会では、私が質問しても、松井市長・吉村知事が「自説」を述べて終わりである。問題を深められないので、イライラすることが多かった。武田さんが鋭く切り込んで、副首都推進局担当者から重要な「回答」を引き出した。水道料金は上がらない、現在のサービスは維持するというが、それは特別区設置の際の話であり、そのあとは特別区長や特別区議会の意向になる。財政シミュレーションの「改革効果額」などは、二重行政解消などより民営化の影響が大きい。特別区の 1 人当りの裁量経費は、現在より大きく減る。大阪市のままでいいのではないか、大阪市廃止・特別区設置の意味が問われると。

地域住民による大阪市廃止の「勉強会」、住民説明会らしい「住民説明会」であった。

(2020 年 10 月 10 日)